



中国地方観光情報 第六弾

鳥取県編②

まだまだ寒い日が続きますが、木々の芽のふくらみなどに、暖かい季節の兆しを感じる事ができるようになってきました。本格的な春がすぐそこに来ているこの季節は、鳥取県でも様々な初々しい表情を見ることが出来ます。今回は、春の旅の参考にしていただきたいと思います、鳥取県の観光情報をご紹介します。

春の鳥取県

春を迎える行事といえば「ひな祭り」。鳥取市の伝統的なひな祭りに「もちがせの流しびな」があります。旧暦の3月3日、男女一对の紙雛を棧俵に乗せ、菱餅や桃の小枝を添えて、厄除を願って千代川に流します。流しびなの歴史は平安時代にさかのぼります。源氏物語に源氏の君が祓いをして人形を舟に乗せ、須磨の海に流すところがあり、これが起源とされています。以来、物忌みの風習で、紙などで神霊の代わりに人形を作り、この体をなでて災いを移すようになりました。現在は、子供自身が健やかな成長への思いを託して、川に人形を流す風習になっています。鳥取のひな祭りを伝える「もちがせ流しびなの館」では、江戸時代から今日までの800余体の雛が鑑賞できるだけでなく、流しびなの制作実演のあとで、実際に川へ流すこともできます。もちがせ流しびな行事は本年は4月12日に開催されます。ご家族で、お子様の成長を祈願して流しびなを体験されてはいかがでしょうか。

鳥取市青谷町は、全国で初めて和紙部門で伝統的工芸品産業の産地指定を受けた「因州和紙」で知られる地です。因州和紙の歴史は古く、正倉院文庫の「正集」にある、因幡の国で紙が生産されていたとの記録や、平安時代の「延喜式」の朝廷に紙を献上したとの記録があります。その長きに渡る伝統を引き継ぎ、現在でも高級書道用紙が作られています。因州和紙の特徴は、他の紙に比べて墨の伸びが良いこと。その特性から「因州筆切れず」といわれ、書道家を中心に愛用されています。有名などころでは、



もちがせの流しびなは、旧暦の三月三日に男女一对の紙雛を棧俵にのせ、無病息災で一年間幸せに生活できるよう願う千代川に流します。

東京・浅草寺の雷門の大提灯に、因州和紙が使われています。現在は、日常生活での文字離れが進み、インテリアやパソコン印刷紙など、新たなニーズに活路を見いだしています。「日置和紙工房」や「あおや和紙工房」では和紙作りの体験ができます。

鳥取市へは3月に全面開通する無料の高速道路「鳥取自動車道」をご利用ください。

鳥取県の農作物

鳥取県で生産される農産物はバラエティに富んでいます。訪れたその土地で、土を被った採れたての野菜を味わう贅沢も旅の醍醐味です。鳥取県は、県内で約70カ所もの朝市が開かれる朝市王国です。ふれあい市とよばれ、地元の団体によって運営されています。各農家が家庭用に作ったものの一部や、出荷用に作ったものの規格にもれたものなどが並べられるため、形は不揃いながら、味は良いとのこと。しかも小売り店の価格の半額程度なので、早起きして買い求めたいものです。鳥取市の気高町では地元の小学校の給食に使われる野菜が主で、里芋、千切りゴボウなどの総菜も並びます。海岸美で知られる岩美町の浦富では信心深い土地柄から供養用の花が豊富。米子市の小波では廃油利用の石けんなどの手作り品が並ぶなど、それぞれの地域の個性を売り物にしています。料理本には載っていない、その土地ならではの調理法を農家の方と語らうのも良い思い出になります。

鳥取が先駆けとなり全国に広まった農法に、米の再生紙マルチ栽培があります。水田に生える雑草は稲の生育が悪くなるばかりでなく、除草は駆除に手間がかかる作業でした。鳥取大学農学部が雑草が生えないよう稲以外のところをビニールシートで覆うなどを試みましたが、処分に困るなどの問題が生じていました。試行錯誤の結果、シートかわりに段ボールの再生紙を敷くと、雑草が生えない上、時間が経つと再生紙が溶け、それが稲の栄養分になるとわかりました。なお、鳥取県ではコシヒカリとひとめぼれの作付面積が約90%を占め、約70%が京阪神に出荷されています。

マラソン王国鳥取

マラソンは年間を通じて全国的に行われる市民参加のスポーツですが、鳥取県は、全国で最も多くマラソン大会が開かれる地域です。五輪選手も輩出しており、バルセロナ大会では銀メダルを受賞した森下広一氏、4位入賞の山下佐知子氏は鳥取県出身です。五輪マラソンで、同一県人がアベックで選ばれたのは史上初の快挙でした。

町村主体では西日本一の規模といわれる北栄町すいか・ながいもマラソンがあり、名産のスイカ食べ放題や砂丘ながいもを味わうことができます。ほかに日吉津村のチューリップマラソンは、チューリップ畑を快走し、大山高原マラソンでは、標高800mの高原を走り抜けるなどのことができます。自分の好みにあった大会を選ぶことで、走る楽しみの幅が広がることでしょう。

最後に、鳥取県ゆかりの人物を紹介します。名和長年は、鎌倉幕府を倒す動きが大きくなるとの気運を感じとり、隠岐の島に流されていた後醍醐天皇の脱出を助けた豪族です。北脇永治は千葉県の子供の二十世紀梨の苗木を元に、鳥取県での二十世紀梨の



栽培を始めた人物。稲村三伯はハルマ和解というオランダ語辞書を著し、関西での蘭学普及に努めました。

鳥取県関西本部

大阪市北区梅田1の1の3大阪駅前第3ビル22階
06・6341・3955

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞